

### 3.3. 説明内容に適切なショット

高橋 秀明

#### 3.3.1. はじめに

操作をことばで説明することに対して、操作を実演することの方がユーザにとって操作を理解しやすいと素朴に考えられているが、本当であろうか？ そして、操作の実演風景をビデオカメラで撮影しビデオテープに編集することで、操作のビデオマニュアルを簡単に作成することができるのであろうか？ 本節では、これらの問いがそれほど単純には解決できないことを示すことになる。

そこであらためて、以下の問いを考えてみる。操作の実演をどのように他人に見せることができるだろうか？ 操作の実演をどのように映像に記録することができるだろうか？ これらの問いを考えるためには、いわゆる映像表現の技法とその心理的な機能についての知見が参考になる。

Kraft (1991) がそのような映像表現の技法とその機能についてまとめている (表 3.3.1.)。たとえば、同じ対象を映像で記録する場合に、上から見下す角度で取る場合と下から見上げる角度で取る場合とを比較してみると、見下す角度の場合は対象に対して「重要ではない」と捉えがちになり、一方で見上げる角度の場合は対象に対して「優れている」と捉える傾向がある。映像技法には、このようなカメラアングルに関するものばかりでなく、カメラの焦点の当て方、ショットのサイズ、照明の当て方、フレーム内の対象の位置やバランス、カット技法などさまざまな技法がある。

操作の実演を映像に記録する場合、このような技法の効果をあらかじめ予想しておく必要がある。さらに、実際の映像はこれらの技法を複数取り入れているので、その効果も複合的なものとなる。しかし、映像表現の技法についての研究はまだまだ少なく、始まったばかりの状態である (中島、1996)。

本節では、研究の第一段階を示すにとどまるが、インスリン注射のためのビデオマニュアルに使用されている映像の内、特徴的なショットを取り上げて考察することにする。すなわち、説明内容にあった映像表現をどのようにつくるかという問題を、事例によって考察する。

#### 3.3.2. 分析と結果

分析の方法は以下の通りである。

- ビデオマニュアルの書き起こし：時間軸に沿って、カットごとに、その開始と終了との時刻、カットの内容、発話 (登場人物およびナレータ)、効果音などを書き起こした。資料を参照のこと。
- ショット構成のパターン分析：説明の単位ごとに、どのようなショットで繋がられているかを分析し、ショット構成のパターンを明らかにした。
- 特徴的なショットの抽出：このパターン分析をもとに、特徴的なショットを抽出した。

分析の対象としたビデオマニュアルは、日本イーライリリー株式会社のインスリン注射器 3

種に添付されている取扱説明のためのビデオテープである。それぞれのビデオマニュアルの内容については、前節を参照のこと。

以下、抽出された特徴的なショットとして、「肩越しに注射器を操作している」ショット(図3.3.1.)についてのみ検討の対象とする。このショットは、注射器のユーザの背後からのショットであり、注射器とそれを操作している両手を中央に、ユーザの顔・肩の一部も撮り込まれたものである。

表 3.3.1. 映像技法の効果 (Kraft (1991) より引用)

Some Principles of Film Composition	
Technique	Connotative Meaning of the Technique
<b>Lighting</b>	
Above	Spirituality
Below	Generally unfavorable
45-degree	Generally favorable
Front	Blandness
Back	Mystery
<b>Camera angle</b>	
Low	Superiority
Eye-level	Parity
High	Insignificance
Tilt	Imbalance
<b>Perspective</b>	
Normal	Neutrality
Telephoto	Intimacy
wide-angle	Loneliness
Selective focus	Forced attention
In-depth	Active viewer
<b>Lines and forms</b>	
Vertical	Strength and dignity
Horizontal	Restfulness and peace
Diagonal	Action and power
Curved	Grace and beauty
Intersecting	Tension and conflict
Triangular	Firmness
Rectangular	Solidity
Circular	Unity
Cross-shaped	Forcefulness
<b>Position in frame</b>	
Center	Neutrality
Top	Power
Bottom	Subservience
Edges	Insignificance
Off screen	Mystery
<b>Balance</b>	
Imbalance	Uneasiness
Balance	Security



図 3.3.1. 「肩越しに注射器を操作している」 ショット：単位設定1

このショットは、「ヒューマカート（キット）」のみで使用されており、「オートペン」「ヒューマペンエルゴ」では全く使用されていない。「ヒューマカート（キット）」においては、表 3.3.2. のように、5つのカットで使用されている。

このショットが最初に使用されているのは、「導入」部分における、「患者さんの立場を考えて設計された」というナレーション付きのカットである（図 3.3.2.）。老人が家庭で使用している様子である。次に使用されているのは、「単位設定の準備」において、「空打ち」の説明が入る最初のカットである（図 3.3.3.）。次の「単位設定」の説明においては、その最初のカット（図 3.3.1.）、説明の中程での「主治医に指示された単位に設定する」というテロップ付きのカット（図 3.3.4.）、および最後のカット（図 3.3.5.）において使用されている。

表 3.3.2. 「ヒューマカート（キット）」に使用された「肩越しに注射器を操作している」カット一覧

カット番号	カット内容	せりふ
<b>導入</b>		
C10	注射器を持った男性の後ろ姿	患者さんの立場を考えて設計された
<b>単位設定の準備・空打ち</b>		
C59	女性がヒューマカートを持っている（肩越し）	
<b>単位設定</b>		
C85	女性がヒューマカートを持つ（肩越し）	単位設定ダイヤルを
C92	女性がヒューマカートのダイヤルを回す（肩越し）	主治医に指示された単位が単位表示窓に表示されるまで単位設定ダイヤルを回します。
C95	女性がヒューマカートを持つ（肩越し）	以上で単位の設定は終了です。



図 3.3.2. 「肩越しに注射器を操作している」ショット：導入

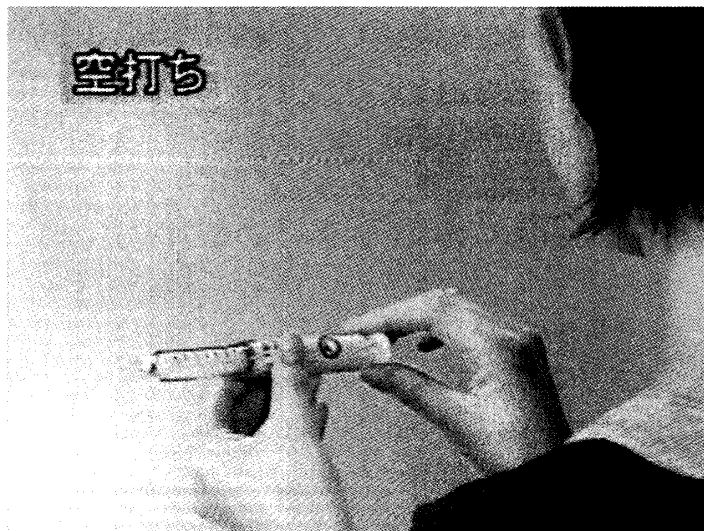


図 3.3.3. 「肩越しに注射器を操作している」ショット：空打ち



図 3.3.4. 「肩越しに注射器を操作している」ショット：単位設定2



図 3.3.5. 「肩越しに注射器を操作している」ショット：単位設定3

なお、これ以外に2つのカットにおいて、このショットが使用されている。いずれも、主要な説明が終わり、注意点を上げていく際に、このショットをPinPで挿入しているものである。図 3.3.6. が「空打ち」の注意点、図 3.3.7. が「注射」の注意点でのカットである。

以上から、「ヒューマカート（キット）」においては、このショットは「単位設定」の説明において主要なショットとなっていることが分かる。「単位設定」の説明においては、このショットで始まりこのショットで終わっている。これに対して「空打ち」の説明では、説明の途中で1回だけ使用されているにすぎない。

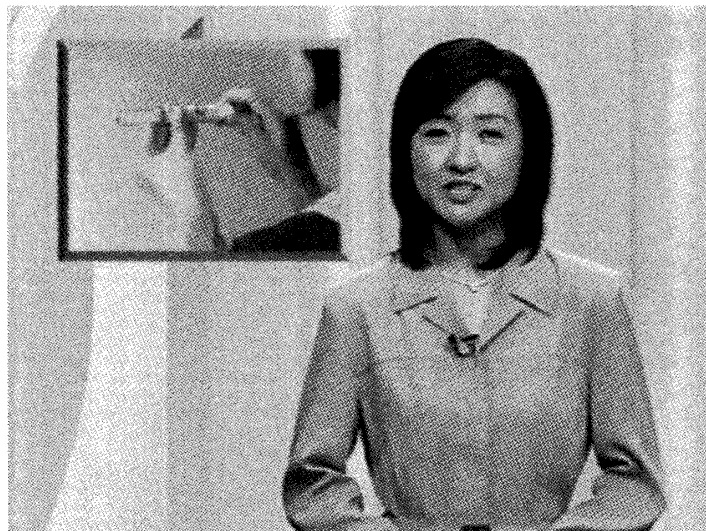


図 3.3.6. 空打ちでの注意

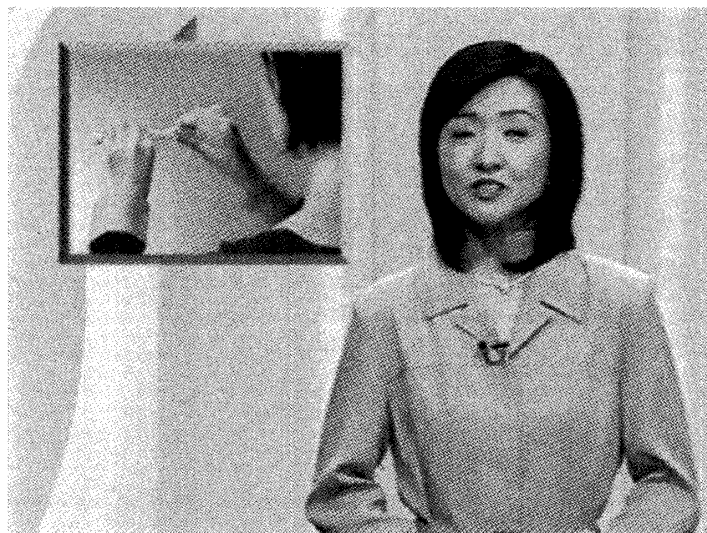


図 3.3.7. 注射での注意

このことをさらに確認するために、他の注射器「オートペン」「ヒューマペンエルゴ」での「単位設定」の説明において使用されているショットを検討してみる。まず、「オートペン」での「単位設定」において主に使用されているショットは、図 3.3.8. のようなショットである。操作している手先と注射器の該当部分とをアップで撮影している。「ヒューマペンエルゴ」では、まず図 3.3.9. のように注射器全景と操作する両手のショットが使われた後、図 3.3.10. のように操作する手先と注射器の該当部分とのアップというショットが使用されている。この2つのカットには「主治医に指示された単位を設定する」という同じテロップが同じ位置で提示されている。これは、「ヒューマカート (キット)」でも同様であり、すでに説明した図 3.3.2. の次に、やはり操作する手先と注射器の該当部分のアップのショットが、同じテロップとともに使用されている (図 3.3.11.)。

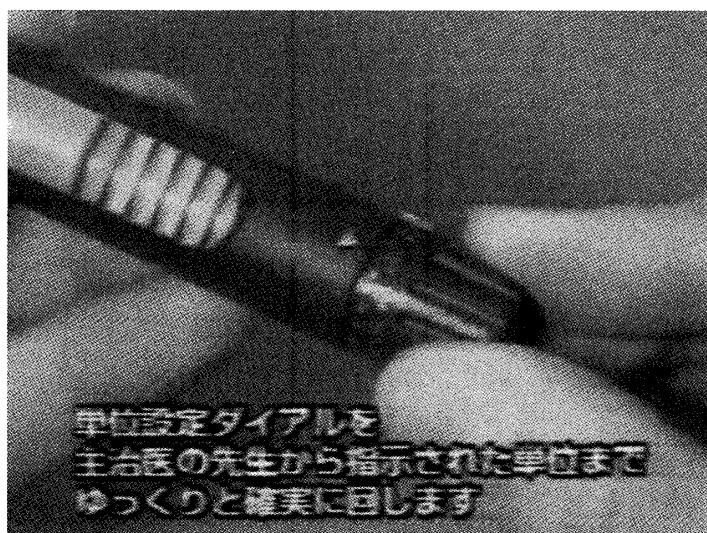


図 3.3.8. オートペンでの単位設定



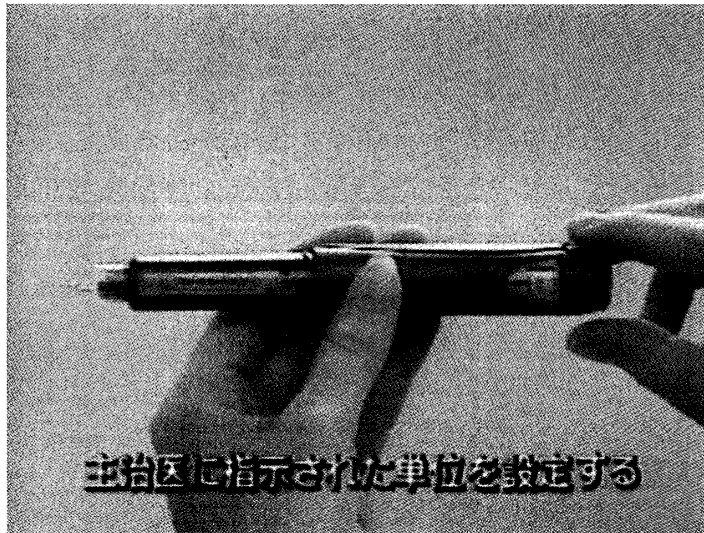


図 3.3.9. ヒューマペンエルゴでの単位設定 1

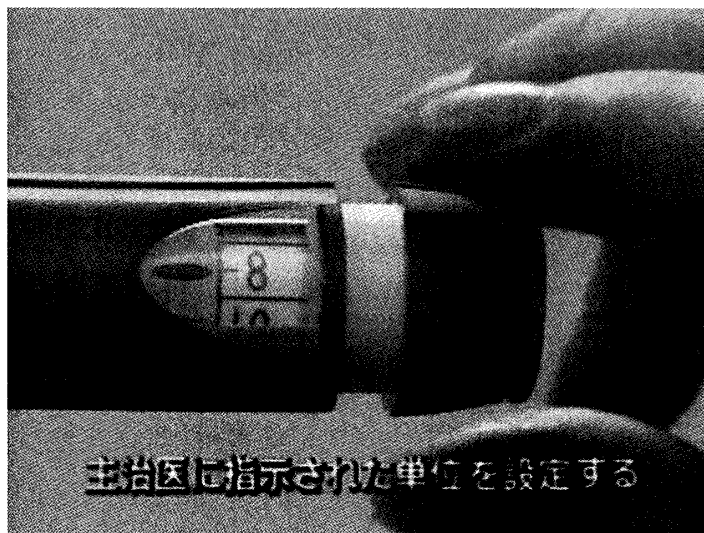


図 3.3.10. ヒューマペンエルゴでの単位設定 2



図 3.3.11. ヒューマカート（キット）での単位設定：アップショット

### 3.3.3. 考察とまとめ

以上から、「肩越しに注射器を操作している」ショットは、「ヒューマカート（キット）」における「単位設定」の説明に適切なショットとなっていると言えよう。そして、その理由は、「ヒューマカート（キット）」においてこのショットが最初に使用されているのが、「導入」部分の、「患者さんの立場を考えて設計された」というナレーション付きのカットであったことに象徴されている。「患者の立場」とは、より一般的には「ユーザの立場」であり、あるいは「消費者の立場」や「生徒の立場」と言えるであろう。

このようなユーザの立場からの映像表現をつくるとしたら、最も単純には、ユーザの一人称の視点からのショットとなる。今回扱ったビデオマニュアルでは、「注射器の当該部分とそれを操作する手とのアップ」というショットがこのようなユーザの視点に最も近いショットである。確かにこのようなアップのショットによって、説明の対象が明示され、操作の仕方も明解になるとは言える。しかしあまりにも対象に近接しているために、たとえば、そのアップされた部分が注射器全体の中でどこにあるのかとか、その当該の操作が全体の操作の中でどのように位置づけられるのかということがわかりにくくなる可能性も高まる。

そこで、「肩越しに注射器を操作している」ショットは、ユーザの一人称の視点ばかりか、アップのショットに比べてより客観的・全体的な視点も込められたショットとなっていると考えることができよう。「単位設定」の説明においては、ユーザが主体的に注射器を操作して「単位を設定」しなければならないが、「主治医に指示された単位に設定する」という客観的な操作をすることがポイントとなっている。これに対して、「空打ち」や「注射」の説明では、むしろユーザが主体的に操作することがポイントであり、「単位設定」に比較して、客観的・全体的な操作をすることはそれほど求められていないのであろう。

3つのビデオマニュアルを比較してみると、「オートペン」「ヒューマペンエルゴ」においては、「ヒューマカート（キット）」において配慮されていたような、ユーザの主体的操作対客観的・全体的操作を区別して映像をつくることができているということである。少なくとも「単位設定」の説明においては、「ヒューマカート（キット）」はよりわかりやすい説明に成功していると言えよう。

従来ビデオマニュアルは、時間が一方向に流れてしまうという根本的な制約を持っているために、メタ的なあるいは重層的な説明をすることが困難であると考えられてきた。しかし、ここで分析したように、若干の工夫をするだけで、客観的・全体的な操作を明示するような映像表現をすることができる可能性がある。このように、ビデオマニュアルは映像表現の技法に配慮することで、ユーザにとって操作を理解することをかなり促進することができると言えよう。

ビデオマニュアルの分析を行うことで、文書マニュアルのすばらしさを再認識することが多い。こうして、文書マニュアルの弱点をビデオマニュアルの長所でカバーしたり、ビデオマニュアルの欠点を文書マニュアルの利点で補完したり、というような循環的な関係として、これら2つのマニュアルを捉えることで、よりユーザにとってわかりやすいマニュアル制作への手がかりを得ることができると言えよう。



## 引用文献

- Kraft, R. N. 1991 Light and mind : Understanding the structure of film. In Hoffman, R. R. and Palermo, D. S. (Eds.), *Cognition and the symbolic processes : Applied and ecological perspectives*. Hillsdale, N. J. : Lawrence Erlbaum Associates. Pp. 351–370.
- 中島義明 1996 映像の心理学：マルチメディアの基礎 サイエンス社